

令和5年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

- ・豊かな心とたくましい体を持ち、自ら考え意欲的に学ぶ子どもの育成
- ・自ら考え学ぶ子 自他を愛する子 夢を持ち挑戦する子 健康でたくましい子

学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び織のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		2.8	3.0
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善とともに、朝学習及び計算チャレンジタイム、放課後学習等を中心とした学力保証。 ・特別支援教育推進委員会を核にした、個々の児童の教育的ニーズに応じた支援への組織的な取組。 ・給食指導を中心に据えた、食育。ランチルームの活用。 ・体育学習を充実させ、運動好きを増やす。秋の体力向上週間を設けた。 ・電子黒板、タブレット端末等、ICTの活用推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師招聘による授業研究、計算チャレンジ及びチャレンジ検定の実施等により基礎学力の定着を図った。 ・全教職員で、特別な支援を要する児童について共通理解を図りながら指導に繋げている。 ・給食放送、食育だよりの発行及び栄養教諭による指導により、食についての意識の向上を図った。 ・体力向上週間では、カードの活用により、ジョギングやなわとびに意欲的に取り組んだ。 ・タブレット端末で、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。教師も積極的に電子黒板を活用し、授業改善を図っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習に学級担任以外も入り、更なる充実を図る。 ・個別の指導計画が達成可能なものとなるよう内容の見直しを図る。 ・生活改善に繋がる食育の取組を進め、家庭への啓発を図る。 ・運動の習慣化を目指し、体育科学習のさらなる充実を図る。 ・授業における効果的なICTの活用方法を共有し、学校全体としての取組の充実を図る。 ・情報モラルに関する取組の充実と徹底を図るとともに、保護者への啓発に取り組む。 	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		2.6	3.0
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行をはじめ、生活目標の徹底。 ・道徳授業及び人権教育の推進。 ・生活アンケートの実施、全教職員による全児童の見守り。 ・特別活動を中心としたキャリアノートの作成。 ・保健センター及びSSWとの連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活目標達成のための具体的な取組を、学級ごとに実践してきた。 ・学校全体で、お互いの良さに気づき合う取組(ポジティブ行動支援)を行った。 ・多様性の受容に関する人権講話を行った。 ・生活アンケートから得た情報をもとに、迅速な対応、保護者との連携が進められている。 ・保護者からのメッセージをキャリアパスポートに記入する取組を進めた。 ・SSWが不登校児童やその家庭とつながりを持ち、学校の情報も伝わりやすくなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や朝食、起床時間等に課題がある児童が多く、保健だより、食育だよりをはじめ各種通信等を活用して、家庭への啓発を強化する。 ・他者理解、多様性の受容について、教育活動全体を通じた取組が必要である。 ・ジェンダーに関する取り組みをさらに進める必要がある。 ・長期欠席者や不登校児童への効果的な支援、対応体制を構築し、情報共有する必要がある。 	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.7	3.0
取組	成果	課題と改善策	
・講師を招聘しての授業研究、指導助言。 ・人権、カウンセリングマインド、服務規律、体罰防止、いじめ防止等に係る研修や情報提供、情報共有。 ・会議時間の縮減、ペーパーレス化。 ・コミュニティスクール	・国語科の「読むこと」領域について、伝え合う活動を通じた取組を進めた。 ・リスクの軽減を意識するとともに、服務規律の保持に努めた。 ・会議におけるペーパーレス化の取組が進み始めた。 ・学校運営協議会を設置し、学校応援サポーター制度を立ち上げた。	・様々な情報について全教職員で情報共有し、組織力を高める。 ・週に1回の学年打ち合わせにより、効果的な指導の在り方等をはじめ、OJTを進める。 ・定期や随時の研修、事案情報の共有など、資質向上に向けた効果的な取組を進める。 ・議題について、各部会で十分な検討を行い、一層の会議時間短縮に努める。 ・地域人材の発掘及び活用を進める。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.9	3.0
取組	成果	課題と改善策	
・年間3回の避難訓練と事前、事後指導。 ・毎月の安全点検と必要箇所の修繕。 ・学期1回の校外児童会実施における通学路上の危険箇所の確認と安全指導。 ・防災訓練の実施と教科と関連付けた学習への取組。	・各訓練や取組について随時、評価、反省をし、取組の充実を図っている。 ・細かい地区番号で地区割をし、校外児童会及び一斉下校の円滑化を図っている。	・門の施錠及び保護者証の徹底を図る必要がある。 ・肢体不自由児に配慮した防災体制を踏まえた教室配置の検討を進める。 ・最終下校時刻の徹底について、教職員間での共通理解を図る。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.8
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 安定した学級経営の実践。 教科指導の充実。 各領域における取り組みの工夫。 学校行事の充実、工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動の時間を確保することにより、最後までやり遂げる経験を積むことができた。 異学年交流の活動を通して、自己有用感が高まりつつある。 ポジティブ行動支援の取組により、自尊感情を高めることができた。 感染症分類の変更により、教育活動の制限が緩和されたこともあり、学校行事の活性化を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級を超えた協力体制をより強固にし、学級経営の安定化を進める。 研究教科に限らず、他教科の授業を相互に参観できるようにし、指導力の向上、教科指導の充実を図る。 学校行事の精選を図りながら、内容が充実するよう工夫していく。 	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	2.9
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 講師招聘による授業研究及び研修会の実施。 伝え合う活動を通じた読みの深まり。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して、言語活動に取り組むことができた。 他者の意見と自分の考えを比べながら考える様子が見られた。 グループやペアトーク、全体交流、ノート交換に取り組むことで、学び合う姿勢をつくることができた。 叙述をもとに自分の考えをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「伝え合う」から深い学びにつなげられるよう、授業研究を充実させる。 本校児童につけたい力を一層明確にし、具体的な取組を積み重ねていく。 	